

第IV部門

情報の提供が地域活動の参加に与える影響分析～福井県大野市を対象として～

関西大学 学生員 ○上田 良太
 関西大学 学生員 瀧谷 大登
 関西大学 正会員 北詰 恵一

1. はじめに

多くの地方都市において若者を中心とした人口流出によって、過疎化や高齢化が進み、地域存続の危機に直面しているところが出てきている⁽¹⁾。そこで、地方都市では、中心市街地を活性化するための種々の方策が検討されており、その中でイベントや祭りは重要な手法のひとつとして位置付けられている⁽²⁾。

また、そのような地域活動の動機として地域愛着が注目されており、引地ら⁽³⁾ 鈴木ら⁽⁴⁾の研究によれば地域愛着とイベント参加には互いに影響を与える関係があるとされている。この2つの既往研究から、地域のイベントに参加することと地域愛着には循環するような関係があると推測できる。しかし、そもそも、循環に至る前段階の参加を促す方法論の研究は少ない。

2. 目的

本研究では、福井県大野市で行われている祭りに参加して参加者から祭りに関する情報を収集し、その結果を基に、住民参加の既往研究⁽⁵⁾を参考にして作成した「祭り」の情報に関する資料を作成し、住民がその情報に触れることで次回参加希望の醸成に繋がるかを調査することを目的とする。加えて、地域の「祭り」の参加が地域愛着⁽⁶⁾に影響を与えるかを検証し、地域イベントへの参加が地域愛着の醸成とどのような因果関係があるのかの解明を目的とする。

3. 研究の方法

本研究では越前おおの産業と食彩フェア、越前おおの小京都物産五番まつりでヒアリング調査を行った。

質問項目は①基本項目②参加理由③次回参加希望④過去のイベント参加有無と理由⑤地域活動の参加度合い⑥大野市の魅力⑦休日の過ごし方 ⑧地域愛着⑨感想⑩満足度について質問し、それを基に、祭りに関する資料を作成した。

次に、大野市の各地域に郵送調査を行い、資料配布群と非配布群の間で次回参加希望する祭りの個数に差があるかを検証、祭り参加と地域愛着の間の循環関係

が存在しているのかを検証した。

郵送調査の質問項目は①基本項目②イベント参加有無と理由③次回参加希望④大野市に対する思い⑤地域との関わり方⑥資料中で注目したページ(資料配布群)で質問した。

4. 結果

(1) ヒアリング調査による分析結果

図1, 2は、市内からの参加、図3, 4は市外からの参加者を対象として、ヒアリング調査結果に基づき共分散構分析を行ったものである。図中のパスの数値に関しては、上段が標準化係数、下段はt値を示す。

図1, 2より市内参加者は地域愛着が祭りの満足度に影響を与え、満足度が次回参加に影響を与えた。これより、市内参加者は地域愛着も必要であるが、祭りの満足度も参加要因の一つになっていると考えられる。

図3, 4から市外からの参加者は去年参加した祭りの個数が地域愛着の醸成に影響を与え、そこで醸成された地域愛着が次回参加希望に影響を与えるということが示された。また、祭りそのものの満足度に関しては祭りの次回参加に大きな影響は与えない結果となり、市内外で参加に至る直接的な要因に違いが見られた。

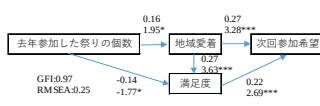


図1. 越前おおの産業と食彩フェア市内参加者の参加モデル図

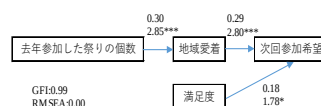


図2. 越前おおの小京都物産五番まつり市内参加者の参加モデル図

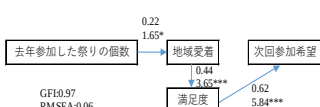


図3. 越前おおの産業と食彩フェア市外参加者の参加モデル図

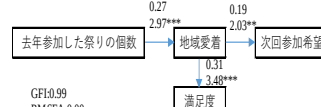


図4. 越前おおの小京都物産五番まつり市外参加者の参加モデル図

(2) 郵送調査による結果分析

(i) 市内の人の祭り参加と地域愛着の関係

祭り参加個数、地域愛着、次回参加希望の間の因果関係を検証するために上記のヒアリング調査と同様に共分散構造分析を行った。

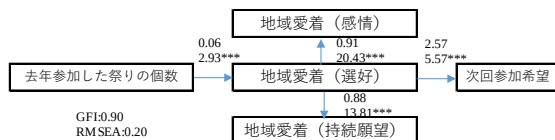


図 5. 祭り参加と地域愛着のモデル図

この結果から、祭り参加を促すことは住民に対して地域愛着醸成の初期段階を促す効果の存在が示唆される。さらに、醸成された地域愛着によって、祭りの次回参加にもつながる結果が得られた。また、醸成された地域愛着は「地域愛着（感情）」や「地域愛着（持続願望）」のような長期的に醸成するとされている地域愛着を生む役割を担えとえられる。

(ii) 資料の有無による祭り参加希望の差

郵送調査で資料配布群、非配布群で参加希望する祭りの個数差が出るか否かで差の t 検定を行った。

t 検定の結果、イベント参加度合いの質問に対して興味もなく参加もしないと答えた層に対しては有意水準 10%で差の検定を行うと、資料によって参加を促す効果が示唆された。(t (12) =1.74, p=0.11)

この結果から、本研究で作成した資料のみでは「祭りに興味は持っているが参加はしない」といった層に祭り参加を促す効果は見られなかったが、興味も持っていない不参加層を対象とした場合のみ効果があることが示唆された。

また、作成した資料の中でどの項目に最も注目したかを尋ねると、最も多かった回答が「大野市の人口減少問題と祭りの効果 (59%)」次いで「祭り同士の関連 (20%)」「祭りに満足度と感想 (9%)」の順であった。(12%は無回答)

このことから、大野市民は祭りの紹介や情報よりも人口減少などの地域の問題に対して関心があると考えられるので、地域のイベント情報を発信する際は、単なる紹介やお知らせのみではなく、地域に起こっている問題は何か、そして、そのイベントや祭りがその問題に対してどのような影響を及ぼすかなどのイベント・祭りの参加意義の提供も求められているのではないかと推測できる。地域の問題という一見ネガティブな情報は住民の目につきやすいと考えられるので、そこに関連付けて提供したい情報を与えることで住民の活動に対する参加意義の形成がされ、それが参加を促すことに繋がるのではないかと考えられる。

5. おわりに

本研究では配布資料によって住民にイベント・祭りに関する資料を読んでもらい参加へと促せるか否かを検証したが、イベント・祭りに興味を持っていない不参加層のみに参加を促す効果が示唆された。

また、イベント・祭り参加が地域の抱える問題にどのようなプラスの効果があるかなどの参加意義を周知させることで参加に繋がる可能性が見られた。

さらに、祭り参加が地域愛着の比較的短期に醸成されるものに影響を与え、その地域愛着が高い人ほど祭り参加希望する祭りの個数も多くなることが示唆され、その地域愛着は長期的に醸成される地域愛着にも影響を与えることが示された。しかし、モデル図の適合度は高いとはいえない結果となった。その理由としては、市内の人を対象としたヒアリング調査の結果では祭りの満足度が参加希望に影響を与えていたが、郵送調査では満足度を尋ねられないため省いて調査した。その結果が、適合度が低い原因の一つであると考えられることから、祭りの満足度と解釈できる指標を加えて再度検討する必要があると考えられる。加えて、祭り開催地とアンケート回答者の住所を照らし合わせて分析したところ、自宅から近い開催地の祭りには多くの参加が見られたが、遠くなるにつれて参加割合が減少する結果が見られた。このことから、参加希望には自宅からの距離も影響を与える要因の一つであると考えられる。

謝辞：本研究は大野市の協力の下行われた。調査では、2つの祭り参加者にヒアリング調査、大野市の住民にアンケートの協力頂いた。謝意を表す。

参考文献

- (1) 羽島剛史：地域コミュニティにおける離脱と発言に関する研究-A.O.ハーシュマンの離脱・発言理論の示唆-、日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol.47, No.3, 2012
- (2) 高秀賢史/高岡耕子/永井護：来訪者からみた祭りの便益に関する比較分析、日本都市計画学会 都市計画論文集, No.39-3, 2004
- (3) 引地博之/青木俊明/大淵憲一：地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—、土木学会論文集 D, Vol.65, No.2, 101-110, 2009
- (4) 鈴木春菜/藤井聡：地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究、土木計画学研究・論文集, Vol.25, no.2, 2008
- (5) 宮本善和/福井渉/道上正規/喜多秀行/檜谷治：水環境保全活動に対する住民参加を促進する方法論に関する研究、水工学論文集, 第 45 巻, 2001
- (6) 藤井聡/鈴木春菜：「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究、土木学会論文集 D, Vol.64, No.2, 179-189, 2008